

【 観光振興について 】 食と観光特別委員会 (R4.8.3)

一 観光振興について

新型コロナウイルス感染症については、全国各地で連日過去最高の新規感染者を確認するなど、これまでにない感染状況となっています。

このような中、政府は新たな行動制限を行わない方針を堅持しており、道としても感染対策を徹底しながら、社会経済活動の維持に努めることが重要であります。道では、どうみん割事業を展開しているところですが、こうした取組も含め観光振興に関連し、伺います。

(一) 道内観光の現状について

全国的に新型コロナウイルス感染拡大が続く中、道内の観光事業者からは、今後の需要減少に対する不安の声も上がっています。道は、道内観光の現状についてどのように認識しているのか伺います。

(答弁：観光事業担当課長)

- ・ 宿泊関連団体を取りまとめた資料によれば、春以降、6月までの宿泊実績は、3月22日に再開した『どうみん割』の実施効果などもあり、コロナ前の水準には及ばないものの堅調に回復。
- ・ 7月以降の実績については、集計中であるが、一部の観光

関連事業者からは、感染の拡大を受け、7月中旬以降、予約のキャンセルが増加傾向にあると伺っており、道内最大の繁忙期であるサマーシーズンへの影響が懸念される。

(二) 今後の対応について

厳しい観光事業者の方々の現状を踏まえると、どうみん割事業をはじめとする需要喚起にしっかりと取り組むことが重要ですが、一方で現下の状況を踏まえワクチン接種回数の変更など、更なる対策強化も視野に入れながら、社会経済活動の維持に努める必要もあると考えます。

道は、最近の感染状況との関連で、どうみん割事業をはじめとする今後の需要拡大の取組をどのように展開していく考えなのか伺います。

(答弁：観光振興監 山崎雅生)

- ・道内の観光関連事業者は、感染症の影響により、長期間にわたり厳しい状況に置かれており、引き続き、感染防止対策の徹底を図りながら、需要喚起を行っていくことが必要。
- ・本道はまもなく観光の最繁忙期を迎えることから、道では今後、お盆期間に向けて、どうみん割の事務局が実施する宿泊施設への立入検査に本庁や振興局の職員も同行し、対

策の徹底を直接働きかけるほか、観光客に対しても、道が実施している様々な誘客宣伝活動を通じて、無料検査の呼びかけを加速してまいる。

- ・今後に向けては、国の行動制限に関する考え方はもとより、道内の感染状況や医療提供体制などを総合的に勘案し、ワクチン接種の取扱いなどをはじめとした、更なる対策の強化についても検討していく考えであり、時々の状況に応じた機動的な対策を講じながら、観光需要の拡大に努めてまいる。